

## 令和 4 年度「自律した英語学習者育成プロジェクト事業」

## 報 告 書

1 令和 4 年度入学生の指導に係る全体計画 **Plan**

※ CAN-DOリストを踏まえ、3年間を見据えた生徒に身に付けさせたい力とその力を育成するための指導計画を4技能の観点から記述する。

技能	1 年	2 年	3 年
Reading	<p>(力)</p> <p>①観光地等の英語のパンフレットを読み、大体の意味を把握することができる。</p> <p>②教科書の本文を読んで、内容の大筋を理解でき、1文が短く単純な構文で書かれた教科書の内容を、日本語に訳さなくても内容を理解できる。</p> <p>③英文の内容の理解が多少不十分な点はあるが、内容がほぼ聞き手に伝わる音読ができる。</p> <p>(指導計画)</p> <p>英語コミュニケーションⅠの教科書を使って、基礎的な内容について多くのインプットを与えながら、思考力を育成するための発問を組み込んだ様々な読解活動を中心に授業を進める。意味を重視した音読活動も数多く取り入れる。</p>	<p>(力)</p> <p>①外国語学習者向けの英字新聞を読んで大体の意味を把握することができる。</p> <p>②教科書の本文について、複数の段落間のつながりや文章全体の構成を理解できる。</p> <p>③英文の内容の理解がほぼ十分であり、理解した内容が聞き手に伝わる自然な区切りやスピードで音読ができる。</p> <p>(指導計画)</p> <p>英語コミュニケーションⅡの教科書を使って、標準的な内容について多くのインプットを与えながら、思考力を育成するための発問を組み込んだ様々な読解活動や意味を重視した音読活動を中心とした授業を継続する。</p>	<p>(力)</p> <p>①比較的なじみのない話題であっても辞書などを使ってネイティブスピーカー向けの新聞やインターネットの内容を大体把握することができる。</p> <p>②教科書本文中の重要な点とそうでない点を区別し、書き手の意図などをほぼ正確に理解して、筆者の意見と自分の意見とを比較しながら文章を批判的に読むことができる。</p> <p>③英文の内容の理解が十分であり、理解した内容が聞き手に十分伝わるように、ジェスチャー・ポーズ・強弱・スピード等に効果的な工夫を凝らした音読ができる。</p> <p>(指導計画)</p> <p>英語コミュニケーションⅢの教科書を使って、発展的な内容について大量のインプットを重視しながら、思考力の育成を意識した読解活動を継続しつつ、大学入試問題も意識した授業を行う。</p>
Listening	<p>(力)</p> <p>①英語のネイティブスピーカーがスピードやポーズなどにかなり配慮して話をすれば、おおよその内容を理解できる。</p> <p>②教室で用いられる英語は、くり返し話されれば、指示や説明をほぼ理解することができる。</p> <p>③リスニング活動に出てくる、5文程度の長さの短い話や会話を聞いて、話し手の意図や内容をおおまかに理解できる。</p> <p>(指導計画)</p> <p>英語コミュニケーションⅠや論理表現Ⅰにおいて、導入でリスニング活動を行ったり、音読練習においてはシャドウイングやオーバーラッピング活動を行ったりする。リスニング教材を使い、継続的にトレーニングを行う。</p>	<p>(力)</p> <p>①英語のネイティブスピーカーがはっきりとした発音で話をすれば、おおよその内容を理解できる。</p> <p>②教室で用いられる英語は、自然な速度で話されても、指示や説明をほぼ理解することができる。</p> <p>③リスニング活動に出てくる、10文程度のわかりやすい展開の話や会話を聞いて、大筋なら内容を理解できる。</p> <p>(指導計画)</p> <p>英語コミュニケーションⅡや論理表現Ⅱにおいて、導入でのリスニング活動やシャドウイングやオーバーラッピング等のトレーニングを継続するとともに、レベルを上げたリスニング教材でトレーニングを行う。</p>	<p>(力)</p> <p>①日本で放送されている英語で読まれるニュースなどを聞いて、その内容を理解することができる。</p> <p>②教室で用いられる英語は、自然な速度で話されても、指示や説明をほぼ理解でき、多少内容が複雑なものであっても、即座に行動に移すことができる。</p> <p>③リスニング活動に出てくる、複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と内容の説明を区別しながら理解できる。</p> <p>(指導計画)</p> <p>英語コミュニケーションⅢや論理表現Ⅱにおいて、導入でのリスニング活動やシャドウイング等のトレーニングを継続するとともに、大学入学共通テスト等を意識したリスニング教材でトレーニングを行う。</p>

<p style="text-align: center;"><b>Speaking</b></p>	<p>(力) [やりとり] ①補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、簡単な意見交換をすることができる。 ②聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、自分の言葉で話すことができる（1分程度）。 ③日常生活の身近な話題について、簡単な表現を用いてスムーズに質疑応答することができる。</p> <p>[発表] ①日常生活の身近な状況を説明することができ、自分の将来の夢や希望について話すことができる。 ②身近な事柄について、適切な表現を用いて事前に自分の意見と根拠をまとめ、まとまりのある内容をスムーズに発表できる。 ③教科書の内容について、キーワードを使って口頭で英文を作ることができる。キーワードやコンセプトマップを見ながら文単位でゆっくりと話すことができる。</p> <p>(指導計画) ALT とのチームティーチングにおいて、ペアでの簡単なテーマについてのスピーチ練習やフォーマットを与えた会話練習、ミニディベートの練習を継続して行う。英語コミュニケーションⅠや論理表現Ⅰの各単元のテーマに合わせたスピーキング活動を組み入れる。</p>	<p>(力) [やりとり] ①個人的に関心のある身近なトピックについて、簡単な英語を幅広く用いて意見を表明し、情報を交換することができる。 ②自分が興味を持ったニュースや話題について、自分の考えも含めて、相手に伝わるように簡潔に話すことができる（1分程度）。 ③基本的な表現を使って、身近な話題について質問したりコメントしたりして、積極的、かつスムーズに会話を続けることができる。</p> <p>[発表] ①印象に残った出来事について、具体的な描写を加えながら話すことができ、他者からの質問にも答えることができる。 ②1つの主題について、グラフなどの客観的なデータを用いて、賛成と反対の両方の立場から、メモを参考に意見とその根拠を発表することができる。 ③教科書の内容について、本文を抜き出してそのまま使うことが多いが、キーワードやコンセプトマップを見ながらまとまった英文を話すことができる。</p> <p>(指導計画) ALT とのチームティーチングにおいて、ペアでのより高度なテーマについてのスピーチ練習やフォーマットを与えた会話練習、ミニディベートの練習を継続して行う。英語コミュニケーションⅡや論理表現Ⅱの各単元のテーマに合わせたスピーキング活動を継続して行う。</p>	<p>(力) [やりとり] ①ある程度なじみのあるトピックについて、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。 ②与えられた条件に合わせて、伝えたい内容を整理して、自分の考えも含めて、論理的に即興で話すことできる（1分30秒程度）。 ③聞いたり読んだりした内容について、情報や意見交換を行い、話題をさらに展開することができる。</p> <p>[発表] ①短い新聞記事等であれば、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序立てて伝えることができる。 ②1つの主題について、事前に十分な準備の時間をとれば、資料を活用して聴衆に説明することができる。 ③教科書の内容について、自分独自の言葉遣いのある程度取り入れ、順序を工夫しながら、わかりやすく言い換えることができる。</p> <p>(指導計画) 英語コミュニケーションⅢや論理表現Ⅱの授業において、ペアで発展的なテーマについてのスピーチ練習や即興での会話、ミニディベート、ディスカッションの練習を継続して行う。各単元のテーマに合わせたスピーキング活動を継続する。</p>
<p style="text-align: center;"><b>Writing</b></p>	<p>(力) ①5～6文程度の短い簡単な内容の英語の日記を書くことができる。 ②自分の意見や感想を意味が伝わるように5～6文の英文で書くことができる。 ③読んだ英文の内容について、主題文や結論文などの主要なメッセージ部分が不明瞭なことはあるが、キーワードを使って英文を書くことができる。</p> <p>(指導計画) スピーキング活動で話した内容を書くことで、英語を書くことに慣れさせるとともに、正確さを高める手助けとする。教科書</p>	<p>(力) ①英語の手紙や電子メールなどで、ある程度まとまった内容を、それほど辞書を引かなくても書くことができる。 ②学習した表現（語い、文法、構文等）を使って自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。 ③読んだ英文の内容について、本文を抜き出してそのまま使うことが多いが、主題文や支持文をつないでサマリーを作り、簡単なコメントを付け加えることができる。</p> <p>(指導計画) スピーキング活動と連動した活</p>	<p>(力) ①身近なニュースや社会問題について自分の意見を考え、段落構成をふまえて書くことができる。 ②意見の分かれる話題について、自分の意見を論理的に考え、段落構成をふまえて複数の段落で書くことができる。 ③読んだ英文の内容について、自分の表現のある程度使いながらサマリーを作り、さらにその内容に対してコメントを付け加えることができる。</p> <p>(指導計画) スピーキング活動との連動を継続しつつ、大学入試問題を意識</p>

	<p>の内容について質問に答える活動や自分の考えを表現する活動など、英語を書く機会を数多く与える。</p>	<p>動を継続するとともに、学習した表現（語い、文法、構文等）を使って、文章構成を意識しながら自分の意見を書いたり、書いたものを個人・ペア・グループ等の様々な形態で振り返ったりする機会を数多く与える。</p>	<p>した自由英作文や和文英訳を行う機会を与える。より発展的な話題に関して、自分の意見について論理構成を意識しながら、それまで学んだ表現を使って英語で書いたり、個人・ペア・グループ等の様々な形態で振り返ったりする活動を継続する。</p>
--	---	--	--

2 試験結果を踏まえた(1)現状分析、(2)重点課題、(3)重点課題の克服に向けた実践(指導と評価の工夫) **Do**

※(3)実践については、各年次3月までの実践とし、民間試験受検前後の変化等がわかるように具体的に記述する。

※パフォーマンステストの実施についても、実施内容や回数等を記述する。

技能	(1) 現状分析	(2) 重点課題
	(3) ①実践(指導の工夫)	(3) ②実践(評価の工夫)
Reading	(1) 232名が受検し、461~500が最も多く118名、次いで421~460が87名で、学年のほとんどの生徒がこのスコアレンジに入っている。全体の平均スコアは469で「A2相当(英検準2級合格レベル)」であった。昨年度の1年生の平均スコア462と比べると若干高いが、「B1相当レベル」の515から-46と、他の3技能と比べると、Speakingに次いで劣っている。	(2) 「語彙・熟語・文法」の平均得点率が51.6%と、すべての「技能・分野別平均得点率」の中で最も低く、重点的な指導・対策が必要である。
	(3) ① 英語コミュニケーションの授業で教科書を読解する場面では、英問英答の問題に加えて、True or False問題を継続的に出題し、scanningを意識した指導を行う。英語と内容の両方の定着を図るために、意味を重視した音読活動にも様々な形式で取り組ませる。	(3) ② 波及効果を考え、定期考査に初見の読解問題を毎回出題し、生徒に普段から自分の力で読むことに意識的に取り組ませる。また、True or False問題などscanningを必要とする問題を必ず出題し、スピードとエビデンスを意識した読みを普段から心がけさせ、普段の学習を評価できるようにする。
Listening	(1) 232名が受検し、451~490が最も多く83名、次いで411~450が82名であった。全体の平均スコアは454で「A2相当(英検準2級合格レベル)」であった。昨年度の1年生の平均スコア464と比べると10ポイント低く、「B1相当レベル」の496から-42と、他の3技能と比べると、Readingと同程度離れている。	(2) Readingと比較すると、スコアレンジが幅広く、331~370が1名、371~410が82名おり、リスニングの土台が身につけていない生徒も全体の12%程度存在している。リスニングの基礎から再度指導する必要がある。
	(3) ① 英語コミュニケーション、論理表現の授業において、教科書を活用しリスニング活動に取り組ませる。クラスルームイングリッシュを多用することで、普段から英語の音に慣れさせる。また、ALTとの授業に合わせて、週に1回程度リスニング教材に取り組ませることで、リスニングを徹底的に強化する。	(3) ② 論理表現の定期考査に毎回リスニング問題を出题する。配点の割合を高め(20~30%程度)に設定し、リスニングの重要度を認識させる。授業で行ったリスニング活動と関連した問題を出题することで、普段からリスニング活動に真剣に取り組むように仕向ける。
Speaking	(1) 232名が受検し、381~420が最も多く129名、次いで421~460が57名で、他の3技能と比べるとボリュームゾーンが1段階下に存在している。全体の平均スコアは403で4技能の中で唯一「A1相当(英検3級合格レベル)」であった。昨年度の1年生の平均スコア411と比べると8ポイント低く、「B1相当レベル」の467から-64と、他の3技能と比べると、大きく落ち込んでいる。	(2) 「Q&A」の平均得点率が62.0%と、リーディング(音読)の67.8%と比べて6ポイント程度低く、意識的な練習の機会を持つ必要があると考える。
	(3) ① 英語コミュニケーションの授業において、ワークシートを活用しながら各読解素材の最後に、様々なペアで内容に関する評価発問について英語で話し合わせる機会を作る。週1回	(3) ② 学期に1回程度、パフォーマンステストを行う。英語コミュニケーションの授業での単元のまとめの活動と連動させたスピーキング課題に取り組む、タブレットで撮影したものをGoogle

	<p>の ALT との授業は、特にスピーキングに特化した授業を行う。英検の 2 次試験の「絵を描写する問題」等を授業に取り入れ、ペアやグループで picture description 活動を行う。</p>	<p>Classroom で提出させ、担当教員が評価する。このようにすることで、授業でのスピーキング活動に対する生徒の意欲が高まるだけでなく、授業外での自主的なスピーキングの練習にもつながると考える。</p>
Writing	<p>(1) 233 名が受検し、461~500 が最も多く 108 名、次いで 421~460 が 83 名であった。全体の平均スコアは 463 で「A2 相当 (英検準 2 級合格レベル)」であった。昨年度の 1 年生の平均スコア 444 と比べると 20 ポイント近く高く、「B1 相当レベル」の 472 から 9 と、あともう少しで到達する。</p>	<p>(2) 「内容」(70.0%)、「構成」(73.1%)、「語彙」(71.8%)の平均得点率がいずれも 70%を超えており、他の 3 技能と比べると指導の優先順位は低い。しかしながら、今後も書く機会を継続的に与え、様々なトピックについて書くことに慣れさせ、国公立 2 次試験等に備えていく。</p>
	<p>(3) ① 英語コミュニケーションや論理表現の授業において、教科書の内容に関する自分の意見等、まとまった量の英語を書かせる。また、ALT との授業では、スピーキング活動と関連させ、話したことを書かせる機会を多く設定する。生徒が書いたものの中で特に優れたものを ICT を活用して他の生徒と共有して参考にさせることで、accuracy を向上させる。</p>	<p>(3) ② コミュニケーション英語、論理表現ともに、授業に関連した自由英作文を定期考査に出題する。関連した内容を出題することで、授業のライティング活動に意欲的に取り組ませるとともに、くり返し練習することで accuracy を向上させる。</p>

### 3 実践の検証 **Check** 及び改善案 **Act**

- ※ 検証については、各年次3月までの実践について、全体計画及びCAN-DOリストを踏まえながら行い、検証の結果（評価）を記述する
- ※ 改善案については、次年次以降の指導と評価に向けて、全体計画、CAN-DOリスト、これまでの実践、検証を踏まえて記述する。

技能	実践の検証	改善案
Reading	① 英問英答など、様々な読解問題を授業に組み入れた。また、事実発問、推論発問、評価発問をバランスよく取り入れることができた。加えて、True or False 問題もすべての読解素材で設定し、概要把握、要点把握の力を伸ばすことを意識させることができた。	① 多くのインプットを与えながら、様々な読解活動を継続することに加えて、次年度の英語コミュニケーションⅡの時間には、大学入学共通テストに備えて、情報検索問題を計画的に組み入れる。また、読むスピードと概要把握、要点把握の力をさらにつけさせるために、速読力を高めるためのテキストや活動を組み入れる。
	② すべての定期考査に初見の読解問題を出题することができた。また、True or False 問題も毎回出题することができた。音読に関しても、個人やペアで予定通り様々な方法で音読活動を継続することができたが、それら进行评估する機会を持つことができなかった。 ※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化 （4月→2月） ※1学年終了時の目標達成 Reading① 42.6% → 87.7% Reading② 51.4% → 88.2% Reading③ 56.8% → 93.6%	② 新たに意識的に取り組む情報検索問題や、速読を意識した読みをきちんと評価できるように、定期考査に意識的にそれらの問題を組み入れる。年度の初期は、音読の評価もできるようなパフォーマンステスト（Google Classroom を活用した実施）を設定し、きちんと評価できるようにしたい。
Listening	① 教科書の流れに沿って、継続してリスニング活動を取り入れることができた。クラスルームイングリッシュに関しても、多くの生徒が慣れ、教師のある程度のスピードの英語の指示にも、苦勞なくついてくるようになる。リスニングテキストにも、ALT との授業において、予定通り約週1回のペースで継続して取り組むことができた。	① 授業内でリスニングに取り組む機会を数多く設定したもの、家庭でのリスニング練習の取り組みが生徒によってかなりばらつきがあったようである。進研模試の結果からも、いまだにリスニングが弱点になっている。定期考査と関連したリスニング課題や、教科書の英文をQRコードを利用してリスニングするなどの課題に計画的に取り組ませ、リスニング量をさらに増やすようにしたい。
	② 毎回の定期考査にリスニング問題を20～30%程度の配点で出题し続けることで、生徒のリスニング力が少しずつではあるが、向上してきた。しかしながら、定期考査において、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を意識した問題は出题することができなかった。 ※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化 （4月→2月） ※1学年終了時の目標達成 Listening① 58.8% → 93.6% Listening② 72.3% → 97.7% Listening③ 66.2% → 96.4%	② 今後も定期考査にリスニング問題（テキスト付属またはオリジナル問題）を計画的に出题し続けるようにし、その配点も20%～30%を維持する。オリジナル問題を作問する際には、特に「思考・判断・表現」を問う問題を数問でも出题できるようにし、生徒のリスニング力向上につなげる。
Speaking	① 計画通り、教科書の学習時に評価発問に取り組む中で様々なペアの相手と内容に関して話し合わせる事ができた。週1回のALTとの授業でも、ライティング活動と連動させたスピーキング活動を複数回行うことができた。英検の2次試験を想定した活動も取り入れて実施した。しかしながら、進度の都合上、スピーキング活動を数多く行うことは難しかった。	① おそらく来年度も単独のスピーキング活動を数多く行うことは進度の都合上、難しいことが予想される。教科書の内容を指導する過程で、他の3技能とうまく連動させた形でスピーキング活動を取り入れていくことで、生徒の英語の発話量を増やしたい。また、身につけさせたい文法項目に焦点を当てた controlled practice を意識して行ったり、書く活動と組み合わせたりして accuracy を向上させたい。

	<p>た。また、スピーキング活動を通して、生徒の <b>fluency</b> が年度当初より向上したと感じられるが、生徒の話す英語を聞き取ってみると、<b>accuracy</b> がかなり低い生徒も多いことが課題である。</p>	<p>せたい。</p>																												
	<p>②          予定通り、英語コミュニケーションの授業でのまとめの活動と連動させたパフォーマンステストを実施できた。しかしながら、このような形で「話すこと（発表）」の評価をすることはできたが、「話すこと（やりとり）」の評価をする機会を持つことはできなかった。          ※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化          （4月→2月）※1学年終了時の目標達成</p> <table border="0"> <tr> <td>Speaking (Interaction)①</td> <td>45.9%</td> <td>→</td> <td>87.3%</td> </tr> <tr> <td>Speaking (Interaction)②</td> <td>39.2%</td> <td>→</td> <td>81.8%</td> </tr> <tr> <td>Speaking (Interaction)③</td> <td>41.2%</td> <td>→</td> <td>84.5%</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> </td> </tr> <tr> <td>Speaking (Production)①</td> <td>44.6%</td> <td>→</td> <td>86.8%</td> </tr> <tr> <td>Speaking (Production)②</td> <td>40.5%</td> <td>→</td> <td>81.4%</td> </tr> <tr> <td>Speaking (Production)③</td> <td>43.9%</td> <td>→</td> <td>81.8%</td> </tr> </table>	Speaking (Interaction)①	45.9%	→	87.3%	Speaking (Interaction)②	39.2%	→	81.8%	Speaking (Interaction)③	41.2%	→	84.5%					Speaking (Production)①	44.6%	→	86.8%	Speaking (Production)②	40.5%	→	81.4%	Speaking (Production)③	43.9%	→	81.8%	<p>②          次年度は、2学年として、ペアでのやり取りに加えて、ディベートやディスカッション等、複数人数でのやりとりの機会を教科書の内容と連動させて授業内で実施し、それに基づいたパフォーマンステストを実施したい。今年度と同様、1人1台端末や Google Classroom を利用し、テスト実施の効率化や採点の正確性の確保、テストのプラスの波及効果を目指していきたい。</p>
Speaking (Interaction)①	45.9%	→	87.3%																											
Speaking (Interaction)②	39.2%	→	81.8%																											
Speaking (Interaction)③	41.2%	→	84.5%																											
Speaking (Production)①	44.6%	→	86.8%																											
Speaking (Production)②	40.5%	→	81.4%																											
Speaking (Production)③	43.9%	→	81.8%																											
Writing	<p>①          授業内で教科書の内容に関して自分の意見等、まとまった量の英語を書かせる機会を多く持つことができた。また、スピーキング活動と関連させ、話したことを書かせる活動も ALT との授業を中心に多く実施した。Google Classroom 上で、授業で書いた英語をさらにデジタルで提出させることで、書く量を確保し、<b>fluency</b> の向上が見られたと考える。しかしながら、<b>accuracy</b> においては、生徒の英語を添削する機会をあまり持つことができず、向上させることが難しかった。加えて、当初予定していた生徒の英語を ICT を使って共有するという段階までは、進度の都合や教員側の負担の面で行きつかなかった。</p>	<p>①          年度当初と比べて多くの生徒が英語を書くことに慣れてきた。しかしながら、書くためのアイデアが思いつかなかったり、基礎的な文法の力や英語の基本構造の知識が足りなかつたりして、思うように英語が書けない生徒や、ALT と共同で説明、指導はしたものの、英語の書き方（1つ1つの文、結束性、文章構成等）の知識についてもいまだに不十分である生徒が多い。今後、これらの点を改善し、<b>accuracy</b> を高めるべく、意識的・継続的に指導していく。</p>																												
	<p>②          計画した通り、授業に関連した自由英作文を「思考・判断・表現」の問題として定期考査に出題した。評価の観点は、「分量」「構成」「正確さ」の3点で評価した。その配点は、初期は「分量」を重視し、後半は徐々に「正確さ」の比重を増やしていった。多くの生徒が、「分量」や「構成」については高得点を取れるようになったが、「正確性」に関しては課題が残った。          ※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化          （4月→2月）※1学年終了時の目標達成</p> <table border="0"> <tr> <td>Writing①</td> <td>56.8%</td> <td>→</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>Writing②</td> <td>48.0%</td> <td>→</td> <td>89.5%</td> </tr> <tr> <td>Writing③</td> <td>43.2%</td> <td>→</td> <td>88.2%</td> </tr> </table>	Writing①	56.8%	→	90.9%	Writing②	48.0%	→	89.5%	Writing③	43.2%	→	88.2%	<p>②          今後も継続して、授業に関連した自由英作文を定期考査に出題していきたい。その際に、<b>accuracy</b> の向上には時間がかかるということを踏まえ、<b>fluency</b> を向上させるための「分量」と <b>accuracy</b> を向上させるための「正確さ」の評価の観点のバランスを生徒の実態と時期を見極めながら調整していく。課題である <b>accuracy</b> を向上させるため、ターゲットとなる文法項目を必然的に使わせるような英作文問題を作問し、出題することも検討していく。</p>																
Writing①	56.8%	→	90.9%																											
Writing②	48.0%	→	89.5%																											
Writing③	43.2%	→	88.2%																											